

## (5) 奨励金、支部交付金 (115万円)

ともに本年度と同額の据え置きとし、支部交付金は7万円+(350円×会員数)に準拠した。

## (6) 事務費 (675万円)

事務費は学会事務職員2名の給与、物品・印刷費、および社会保険事業主負担金等を含んだ額である。事務の合理化・簡素化については庶務・会計委員会で検討中であるが人件費については52年度の公務員のベースアップを勘案して、10%増を計上した。

## (7) 旅 費 (37万円)

昭和52年度の秋季大会は札幌開催が予定されており、庶務・会計、講演企画、奨励金各理事および事務職員1名の往復旅費が必要となる。この他学会費・藤原賞選考委員会旅費が含まれて計上されている。

以上昭和52年度の学会予算案のあらましを記したが総

額で収入5500万円に対し同額の支出が予算案に盛り込まれている。なお本予算案では翌年度(昭和53年度)への前納会費1075万円のほか297万円の繰越金を見込むことができる。この額は会費の約14%に相当するので53年度は物価その他が若干上昇するとしても53年1月よりの会費(52年末に前納する会費)は据え置くことが可能と考えられる。

上記した昭和52年度の学会財政の見通しに関し御意見ある会員は下記会計担当理事に御連絡下さい。

担当理事

杉 本 豊 東京都千代田区大手町 1-3-4  
気象庁予報課

立 平 良 三 同 上

## ==== 会員の広場 =====

### “天気”編集についての意見 (J.K. 生)

“天気”を毎度読ませていただいておりますが、編集について2, 3意見を申し述べます。

多分、紙面のむだをはぶく目的からと思いますが、よく「〇〇ページへつづく」として離れたページへ内容が飛ぶのを見かけます。

これは読みにくく、かえってむだをつくっているかもしれない。

このような点を改良し、読みやすくするために、次のことを提案します。いかがなものでしょうか。

(1) 他のページに飛んで1行ぐらいで終わる場合は、その分だけ著者に連絡して原稿を短縮してもらおう。

(2) 短報・用語解説等は、現在は常にページの1行目から始まっているが、ページの途中からでも始めるようにする。

(3) あまりきっちり埋まっていると雑誌の体裁をそこなおそれがあるので、少しぐらいの空白部はあってよいのではないか。

(4) うえのこと以上に気になるのは図の大きさである。図の内容が複雑な場合は別だが、必要以上に大きな仕上りにしている図も見うけられる。このような場合は、原図を肉太の線に書き直してもらって、少し小さい仕上りにする方が体裁もよいし、紙面の節約にもなる。

編集にお骨折りいただいている委員の皆様には何かと大変なことと思いますが、以上感じたことを述べさせて

いただきました。

#### J.K. 氏のご意見に関連して (編集委員会)

ご意見については、委員会で検討して善処すればよいわけですが、投稿者・読者一般にも関係することですので、J.K. 氏の了解を得て、要点を掲載いたしました。

ご指摘の点について、一応編集の状況や、過去のいきさつを述べますと、(1)、(2)の、ページが飛ぶ件については、数年前気象学会の財政が悪化した際、少しでも有効に紙面を使おうと始めたもので、編集上やむなくページを飛ばせています。しかし記事によって一応優先順位を付けており、解説・論文・シンポジウム等は飛ばさないようにしています。(3)の空白が少ないのもその時以来です。(1)の原稿を短縮してページ内に収める点は、“天気”の場合、発行日が定められていて、著者と連絡をとる余裕がない場合が多く、思うように行なえないのが現状です。(4)で指摘のあった図に関しては、投稿者自身の自覚に期待するところが大きいので、最近も「投稿論文の図の書き方について」(1976年11月号)を掲載して、注意を喚起しています。

ご指摘のありました点を含めて、会員の皆様の要望に応じて編集の仕方を改善してゆきたいと考えていますので、ご意見・ご要望がありましたら、何なりと編集委員会宛にお寄せ下さい。